제1호 1905. 1. 15.

（明治卅八年一月十四日　第三種郵便物認可）　明治三十八年一月十五日　朝鮮日報（日刊）（日曜日）

朝鮮日報

創刊の辭

文明の進歩に伴ひ[illegible]……らざるや論なきなり[illegible]……吾徒は[illegible]……以て社會衆庶の好伴侶たらん事を期す[illegible]……を擧げて韓國實業の調査報告を以て内地の讀者に供し、世界の進運東洋の大勢を審にして我邦家偉大の急務を在韓の我同胞に貢獻せんと欲する所以[illegible]……若し夫れ吾徒が本紙に由りて衆聞最要の韓人を開發せんとするの微志に至りては少しく讀者在韓の企業者と共にするものありて存す、即ち其方法として本紙の體裁を倣ふて毎週諺文の附錄を發行し以て韓人開發の料たらしめんと欲す。

吾徒世論を好んで徒らに重大の責を負ふを敢てせんや、今日の釜山が實に適切なる新聞を要求するは切なるが為め吾徒不敏を顧みず起つて之に當らんとするのみ。吾徒が本紙の創刊に當つて其希望と決心とを表白する事斯の如き而已。

朝鮮日報社全人　敬白

●本紙の特色

社説　本紙は韓國の實情を明かにして内地人の誤解を釋き併せて在韓同胞の為めに我國力膨脹に伴ふ可き適切の指針を設る無らんことを期する[illegible]……なる所論を爲し以て我戰勝國民の對外策に資する所あらんとす

寄書　本社は在京及東洋の各要地に散在せる我社友は勿論當時有名なる各專門家に囑して其寄稿を[illegible]……

實業調査　[illegible]

小説文藝　[illegible]

諺文附錄　韓人の[illegible]……にして假かに[illegible]……俟たすして之を[illegible]……聞紙を以て文明の[illegible]……る可[illegible]……ちて[illegible]……の附錄を[illegible]

各地通信　本紙は尤も[illegible]……なる通信機關を有するを以て東京に[illegible]……も[illegible]……内外の大勢を敏速に報道するは勿論[illegible]……及び内外各地の通信に由りて[illegible]……の記事と[illegible]……し得可きは勿論[illegible]……山と尤も密接の關係ある長崎門司[illegible]……大邱群山木浦馬山平壤鎭南浦[illegible]……安東[illegible]……天津等[illegible]……夫々[illegible]……の通信員を嘱託し[illegible]……されば各地に於ける大小の出來事は遍く本紙の記載に洩るゝことなかる可し

商况　[illegible]……本紙は[illegible]……を始め釜山に關係ある各開港の商况を報道するを怠らず

本紙の體裁　本紙は内地の各大新聞と同形なる十六頁形にして總振假名入なれば此點に於てわが韓ン[illegible]……一歩を擁ち得たるものなるを信ず

廣告

[illegible]

發行兼印刷人　[illegible]

編輯人　[illegible]

發行所　韓國釜山港大廳町[illegible]　朝鮮日報社

朝鮮新談　間違ひ婚

贈葛生祝發刊朝鮮日報　保寧山人

扶桑放曦雞林司晨
鴻蒙之世不孤不鄰
三山東圻鼇頭迷津
蒼々蒼海其波鱗々
斯虎關疆之所畛
三寸不律可以致
平均



釜山港の旭日

[illegible]

朝鮮日報

社說

吾人の朝鮮經營策（一）

世の朝鮮經營を說く者、之を開發勝導して文明の域に進め其國力民富を增さしめて我貿易の好得意たらしめんとし、或は之を我勢力の範圍内に置きて北强に對する藩屏となし之に我過增の民衆を移して其遺利を拾はしめんとす、是れ我邦の國力膨大に伴ふ適切の措置ならむ、此種の政策方針は等しく我邦人の歡迎する所にして近來に至りて韓國經營なる一種の流行語さへ傳播され日露の戰局が的確吾邦の勝利に歸す可きを疑はざるものは滿韓經營を口にせざるを恥づるものゝ如きを見る、是れ當然也、方に喜ぶ可き事に屬す。

吾徒の其急務たるを絶叫する事恐らく人後に落ちず、然れども其手段と方法に至りては吾徒は我邦朝野の有力家が採り來りたる從來の方針に就て頗る慊焉たらざるものありし也。

今我朝野の有力家にして所謂る朝鮮經營を策し來りたるものを見るに一種の成案を以て先づ中央の政界を動かし之を東京に於て決し京城に於て行ひんとするものなりき、故に其成案たるや定に闘然する所無しと雖も其實行の方法に於て其活用を欠ぐ多くは机上の談晝册の論として消滅し去り所謂る經營の實行は依然として何紀元前に在りて存するを見るに過ぎざりし也、日露戰爭の後に於て一時盛んに此朝鮮經營熱の勃興せありしも、既に其施設の根據が所謂中央政界に在りたる爲め僅かに朝廷に於ける一の顧問官被傭の事有るを見るに止まり東京に於ける所謂る朝鮮經營の策源地が僅かに朝鮮の中央に進歸せしのみ、是れ未だ吾徒の希望を滿足せしむる所以に非らざりき、而も此中央政界より始むる朝鮮經營が全然失敗に終らざりしは、今度京釜鐵道の全通を見、我軍事警察權の普及を見んとするに於て是れ全く我政府當局諸士及民間有志の措置が朝鮮經營の成案と者々と實行せるものとして見る可きものあるに見るを得、若この傾向にして次第に步を進め來らば是れ實に議論の時代より實行の域に至れるもの也、吾徒亦少く會心の所あるを喜ぶもの也

是に於てか吾徒の朝鮮經營實施問題に關する眞情、其政策を實行する順序方法に於ける熟誠の議論が始めて我朝野の有力家に貢するの秋ならんとす、今吾徒は其政策と其實行細目に涉る方案とを左に開陳して以て江湖の一讀を煩はさんか。

（つゞく）

東京電報

●警官の韓國派遣（十四日午後〇時三十分東京發／全 午後二時十一分本社着）

壹岐、宮越、小泉の三警視は警部巡査三百名を引き連れ近々渡韓すべし

●ステッセルの長崎着（全上）

旅順の敗將ステッセルは只今長崎へ到着せり

●旅順敵艦の引揚見込（全上）

滿州丸にて旅順口を視察せる某代議士の歸來談によれば旅順の沈沒敵艦は引揚修理の見込ありと

●咸鏡道の露兵（全上）

咸鏡北道の露兵は遠からず國境外に退去するの已むを得ざるに至る可し

●營口來襲の敵兵（昨日午後〇時四十八分東京發／全 午後二時五十五分本社着）

十二日營口來襲の敵を驅逐しタイコウキン以北に潰亂せしめたり戰場に遺棄せる敵の死体六十貳名傷者十六散亂せる武器其他より案ずるに敵の死傷貳百名を下さるべし牛莊の敵は十三日之れを驅逐して潰亂せしめたり

◎英國密輸船拿捕（十四日午前八時五分東京發／全日午前十時二十分本社着）

七十二號水雷艇は十二日午后十時對馬海峽に於て英炭六千噸を搭載し浦汐に向はんとせしレシントン号を拿捕せり

雜報

●韓廷の豫算

各府部の要求額合計一千七百万元以上なりし由なるも之を節減して一千二百餘万元とな……

朝鮮警察權の掌握

韓國京城は勿論八道一帶の地に日本的の普警通察を施行し以て韓國の秩序を維持するあとは到底韓國人の能くする所に非るを以て在韓外國使臣の中には此際寧ろ日本をして全國の警察權を掌握せしめ以て韓國官吏より蒙りつゝある迷惑を免れんと希望するものあれば斯る順序を踏めて遂に實行さるべき形勢なりと云ふ

祝電

朝鮮日報の發刊を祝し前途の隆盛を祈る	東京　黑龍會本部
貴紙の發行を祝す	同　東亞同文會
同	同　朝鮮協會
貴紙の發行を祝し其隆盛を祈る	同　憲政本黨
貴紙の發行を祝す	同　政友會
朝鮮日報の發行を祝す	在東京　山座圓次郎
同	同　稻原晉重郎
同	同　成田十次郎
同	同　犬養毅
同	同　頭山滿
同	同　大井憲太郎
同	同　平岡浩太郎
同	同　神鞭知常
同	同　曾禰俊
同	同　日向輝武
同	同　小川平吉
在東京辯護士法學士	嶺八郎
在仁川辯護士法學士	宮本五朗
在東京辯護士法學士	櫻井熊太郎
同	在東京　中田辰三郎
同	在仁川　井上雅二
同	在東京　人民新聞社

韓錢相場

（十四日）二十七割一分

（爲替取組先）

株式會社　第五十八銀行　釜山支店（電話五十八番）

東京　大阪　京都　橫濱　名古屋
伏木　敦賀　富山　米子　尾ノ道
兵庫　神戶　姬路　網干　宇和島
御坊　岩見　彥根　萩　下ノ關
資島　鹿敷　門司　福岡　伊萬里
長崎　倉敷　博多　京城　阿知須
防府　仁川　小郡

一般の銀行業務及釜山郵便局より取扱可申候

廣告

朝鮮日報

[illegible]

社告

弊社今般本紙發行致就ては大方諸君の御賛助を辱ふし難有奉謝候然るに本社創立早々活字器械等未だ充分に整理不致從つて豫定の附錄頁數を減少するの已むなきに至り且つ紙面の體裁未だ完備不致記事材料の蒐集亦意の如くならず之に加ふるに各地の通信所は到着せざりしは頗る遺憾に候之有候次第本社支局の儀は左記の箇所に設置をるこに準備罷在候

●京城、●大邱、●下關、●馬山浦●寶捌所の儀ハ朝鮮各要地に設置致す筈に候へ共目下の處大邱西門内朝日商會に於て取扱ハせ申す事に致し候

明治三十八年一月十五日

朝鮮日報社

社告

弊社儀今般印刷部を開始し洽く印刷物の御注文に應じ候間多少に不拘御申附け被下度候

追て御注文の節は御一報次第社員罷出御用伺ひ可申上候

明治三十八年一月十五日

朝鮮日報社

社告

本紙初號發刊より向ふ四日間ハ社務整理の爲め休刊致し續いて發刊の上第三號迄ハ無代進呈仕候間其内社員罷出御購讀の有無を伺ひ可申候間陸續御申込被下度候

明治三十八年一月拾五日

朝鮮日報社

小説 戰勝（二） 黑潮 作

『お母さん、僕にサーベルを買つて呉れないかね。』

今年五才なる、鉄男は母の背に負はれながら手にせる紙旗を地に引ずり後より母の顔を覗きあんで聽くのであつた。

母は優しき眼を愛兒の方に向けて、

『サーベルならね、お父様のお歸りになつてから買つて頂つて上げると云つたぢやありませんか。』

『だつてお父さんは何時まで待つても歸らないんだもの、僕はまち長くつ しやうがないもの。』

『もう直に戰爭がすみますからお歸りになるんですよ、そして坊やにサーベルでも帽子でも總でも買つて上げますからね、』

『いやだな、本なの其時は一…』

『嫌だよ、お母さん、私は信ちやんから聞てるんだ、お父さんはもう歸つては來ないつて、』

『信ちやんなんかが知つてるもんですか、』

『だつて、もうお父様は位なつて了つたんだ、僕は知つてるよ もうお母さん何時かしたかでせんをしないだらう、』

時枝大尉は同じ二の妻富子は夫が旅順口の第三回閉塞隊に加つて生死不明の中に數へられてから最早戰死とは覺悟してはゐれども、それかとてまだ公然戰死の通知は無し、二人の小供にも成る可くその事を知らせまいと默つて居るのであるから今日までは賢く迄お雛りになつたら丈夫と自分では最早萬が一も絶望と樂しませて、さて自分では最早萬が絶望して居るけれども唯一つ小供相手にお歸りになつたらを繰返すのを樂みとしてゐるのであつたが、秋まで全く待つてまた新玉の年の始めとなつても難年の儀式をするのを見合せて床の間には有りし夫の面影を遺へて小さき位牌をさへ祭つてゐる。

去年の秋より引籠りてのみ日を送り小供も成る可くは自分に寄りして遊ばせる外近邊



顔は交らせなかつたが流石に姉なる時子のみは其實の不幸に遇へる事とて是のみには眞實に打ちあけたれど生れて人並優れた氣象の見ゆる鉄男には一日も遅く父の戰死せる事を知らせて其小さき心をいとけなせぬ樣にと力むるのであつた、さりとて余りに家にのみ閉ぢ籠らせては亦身体の爲にもなるまいと今日はまた松の内の日本晴に千駄木林町なる住居を出で吉祥寺の邊より青物市場を通つて駒込尋常小學の前まで歩いてゐるのである。

その心遣しも何時の間にか鉄男の小さき眼に看破されて夫の戰死は最早隱す可くもあらず、今しもサーベルをねだられた機會に心中の苦痛な點を衝かれたのであるからはや堅く帶びたる眼に足元危うきを人目にかくらじと鉄男を負ふたる俯手を外づして手巾もて拭きながら、

『そんな事を云ふもんぢやありませんよ、あり』や陸位樣でもなんでもないんですよもうお家へ見向ふから姉さんが歸つてゐらつしやる、さあ下りて歩きなさい』

等好き、……姉ちやん……

『あれあんなに登り上つて操ぐもんぢやありませんよ、あんなに巫戯だとお父様のお歸りなすつても土産を買つては上げませんよ。』

『矢つ張りお父さんは歸つては來ないからと僕は姉さんから貰ふことは出來ないんだから、お母さん買つて吳れよ、サーベルと軍艦を、』

『解らないのねえ、坊は、今時に軍艦なんて軍艦なんぞ買へるもんですか、』

『店に賣つてゐるよ、洋銀で拵へたのを大學校の前の玩弄品店で、』

『その軍艦ですか、坊……』

憂に沈める母の顔には微かの笑が浮んだが再び元の憂ひの樣子に返り、

『買つて上げますよ、坊やが順良しくまへしてゐるなら……そら姉さんが、時子さん今日は大變遅かつたねえ、さあいつしよに歸りませう』

●釜山港商況一斑 商况子

交通機關の發達と共に當港の商況に一大發展を見るべきは期して待つを得べし故に當港の商況を調査して讀者に報導するに

余輩の頗る愉快とする所なり當港の貿易は戰時の爲めに船舶の減少したると又一昨年の農作不良なりし爲めに多大の打撃を蒙りたるが殊に商況は至つて沈靜し不景氣の弊を說くこと屢なりしが昨年は秋收穫の比較的良好なりしと加ふるに戰爭の非常の好影響なりしとに據き昨年十二月の候より商勢頓に活氣を加へ來り殊に米大豆の如きは頗る盛の取引を現出來り久しく沈滯したる商勢も遂に幾何の氣運を見るに至りしは當港の爲め大に慶賀すべきなり然れども本邦賣品に付ては此處一寸添附たる事を現はしたるは一つは當港の最大化したる原因が戰爭の影響を受け加ふるに朝鮮多の凶節に際したる爲め多少の不景氣を來たるも二つには昨年に於ける韓國の農作なりしが爲め輸入を防止したると三つには目下の問題たる輸入米に對する課稅案が議會に上りたると加ふるに米穀輸出禁止の傳說が物を受けたる爲めなれども他に商出禁も云ふべき附帶なるも故に相場の高下揃はず取引は一般に不振しも狀況を呈し居れり而して大豆の如きは韓國に於ける仕込期を經へて居ると云ひて需要大に衰へたるを以て當港に於ける商況は漸く回復に赴きつつあり而して當港に付ての韓國商人の顧客を置けて取引を爲さんとする所あるもんとして賣買に霸なり以て當港に於ける主要なる貨物の價格を左に表示せん

白米（韓白）十一圓二十錢、白米（同上）下十圓三四十錢、玄米上十圓六七十錢、並玄十圓二十錢、大豆上（馬山）七圓九十錢、大豆（州鄙）七圓八十五錢、大豆（黄物）六圓七十五錢、大麥六圓十五錢、小豆十圓一二十錢、牛皮（大）五十六七圓、牛皮（小）五十三四圓、肥料乾鰯（上物）四圓九十錢、乾鰯（並物）四圓五六十錢、

魚市場 （一月十四日）

一金五百四十五圓三十九錢九厘 釜山水產株式會社水揚高

相場		
鯛	十貫目ニ付	金拾五圓也
鮑	仝	仝九圓五拾錢也
サアラ	仝	金六圓五拾錢也
ヒラメ	仝	五圓也
鰤	仝	仝九圓也

以上

●鯛でんぶの好評 釜山水產會社製造の鯛でんぶは淡泊な風味とて原料の選擇に注意し又た其製造法に經驗を積み來るため其味佳良にして嗜好に適し加ふるに旅行用として携帶に便利なるため頗る好評を博し賣行好く繁昌なりと云ふ

◎所感 [illegible] 竹〔?〕 啟

新聞は天下の耳目にして、新聞なきの地は暗夜に燈なきと一般なる事は、天下の認むる所なり、されば文明を以て任じ、文明の曙光を望み大に發展せんとするの國、必ず新聞ありて天下を指導するなきも、天下の人士が等く見る所にして、此の事につきて異議を稱する者なし

韓半島は、我が大日本帝國の指導によう、將に文明の途に上らんとしつゝあるにも關はらず、天下の指導者たる新聞に於て未だ完全なるもの多からず、爲に紙上論する所一方に偏ゐ、正當なる斷定を天下に[illegible]る事は思ならざるもあるに似たり

余、年來實際に從事せるものにして、志韓啓發にあり、常に談するに、韓を以てする者なり、而して余は韓の啓發に付先づ在韓同胞と共に大に論するあらんとし、其志頗る切にあるのおりし時に際り、人あり余に說くに韓地に於ける新聞紙の發刊を以てす余是に於て如寄び翔する情はず直ちに之れに應じ昨年六月相携へて始めて韓山に渡來せり、其の友は誰か、曰く手島保氏なり

余既に手島氏と共に、上陸して釜山賢業顧問に入り、日韓の間に立ち、相互の力を致へるとし、爾來得る限り貿易指導の利益と、彼我の好みとせしに外ならざりしなり、然るに余は意外にも出で余は余の事情あるに於て、[illegible]を有して余りたれば、余は昨年六月常卓頭に足を若けしの日より、今日に至る約八ケ月の日子、永からずと雖も、胸中の苦心、山の如きものありて存す、余が胸中は知る人是れを知らん、今敢て語かされども、日報の發展に全身を擲けて、諸君に御見へんとする事を此に告白するものなり、今後余か如何に、幾か日報と進退を共するかは、請ふ是れを今後に見よ。

……余は其地を辭し、朝鮮毎日新聞の名により、日本に最も關係深き、當釜山に於て再び新業務に着手し、其發行の準備まさに成らんとするに當り、天運數奇、又もや戰爭の爲め再余は十一月の始め毎日社を去り、母國に歸り、別に大に爲すあらんとするのとき、我が生社長の招く處となり即ち十二月の始めを以て、釜山に上陸し、我が朝鮮日報の起るに付き、方略を定め、其の發展を期し、再び三度玄海を渉り遂に本日を以て諸君と相見ゆるに到れり、……

釜山天氣豫報

風 北又ハ西ノ 晴

（四）　（明治卅八年一月十四日第三種郵便物認可）　明治三十八年一月十五日　朝鮮日報　（日刊）　（日曜日）　第壹號

寄書

朝鮮海の漁業

大庭生

十年の意恨一時に發し卅七年は正に我帝國一大活動の歳にして國民は戰爭に熱狂まつゝ又殖産興業にも勉めたり而して滿韓の經營てふ語ば一種の流行語と言ふも不可なき位になり各種の目論見盛んに行はれたるも未だ見るべきものなく或者は資本金を分ちて各居留地の銀行に預け置かんとするものもあり亦未墾の地を開かんとして開けず長日月を是れが研究に毀し了りたるあり而して海上に於ける漁業の狀態は如何と言ふに是れは又着手既に古く昔倭冦時代は暫くをき實業的に通漁したるも遠く天保時代にして維新以來益々盛大を極め近年通漁者一萬五千人漁獲金高二百萬圓を以て數ふるに至り滿韓經營てふ語の未だ流行語とならざる前に於て既に八道の沿海は本漁船の往っざる處なく遠く露領ポセット、ヤンチカ威は威海衞、チーフヽ迄出漁したるものもあり而して漁獲は國勢の膨張と共に益々騰貴し前年來朝鮮より日本に輸入して利益を舉げ得たる魚類運搬業者は其業を失ふに至れり是悲しむべきのことなるか又賀すべきのことなるか魚價の騰貴は時勢の然らしむる處にして時勢の然るは正に帝國膨張の結果なり斯の如くして魚價騰貴せば我等漁師は尚多大の資本を投じ精巧の器械を用ひ學理を應用し經驗と日本人特殊の勇氣とを加へ益々務めて怠らざるべく魚價黄金と比しきに至れば是れを捕ふるの器械も亦黄金を以て製せんのみ新强國の國民は正に宜しく高價の魚肉を喰ひ殊に勇氣を養ひ進んで世界經營の任に當らざる可らず在韓の同胞諸氏以て如何となす

次ぎに現今朝鮮海に於て行はれつゝある主要なる漁業二三種の三十七年に於ける狀況を記述して參考とす

●●●鯛及鰛漁業　此漁業に從事するものは廣島縣の出漁者多く本年の魚況鯛延繩漁業は先好結果にして春期忠淸道竹島附近に於て從事したるものを始めとして爾來漁獲は減少したれども魚價騰貴の爲め何れも相當の收獲ありたり

鰛漁業も亦廣島縣人多く本年の出漁者六十組千八百人にして八月暴風前に於ては頗る好況を呈せしも暴風の被害甚だ酷烈にして人命魚船漁具を失ひたるもの多く大打擊を被むりたるも煮乾鰛の市價益々騰貴して終期にて十貫十圓以上に至りたるか故に一組の魚獲平均四千貫とし價格平均八圓と計算するときは此魚業本年の收獲總額二十萬圓なり

●●鰤魚業　此漁業は香川縣人主として之に從事し春期の出漁岡山縣人と合せて約百隻出百人にして一隻の收獲を四百圓と計算するときは此漁業忠淸道春期の收獲四萬圓なり秋期の出漁も亦香川縣を主とし岡山縣其他二三縣を合し約百五十隻五百人にして漁獲高一隻平均四百圓と計算するときは秋期の收獲六萬圓となり三十七年の總收獲十萬圓なり以上記述の漁業は朝鮮海主要の漁業の一部に過ぎず三十七年は戰役の結果例年に比し通漁船大体に於て約二割の減少あり而して魚群の集散又例年に比し多からず然かも其利益は魚價騰貴の爲め例年に比し甚しく減少せず此際例年以上の收獲有たりとせんか概算二百萬圓の收獲は進んで四百万圓となり朝鮮に於て邦人の關係ある最大生產物たる米價に劣らざるに至るべく而して彼れは商業行爲に係る賣買品にして之れは營業準備金のみを以てする海の遺利たり並に再び謹んで新强國同胞諸兄の一考を乞ふ

（明治卅八年一月十四日 第三種郵便物認可）
明治三十八年一月十五日 朝鮮日報 （日刊） （日曜日） 第壹號附錄 （壹）

朝鮮日報

第壹號 附錄 第壹

祝朝鮮日報發刊

釜山 有吉六度生

朝鮮は我帝國の歷史ありて以來最も親近の國柄にして明治維新より以後我國民は泰西諸文明を學ぶに急なりし結果は此由緒深くして且つ最も研究を要する隣國に對して多少等閑に失せしの譏なきに非りし也其韓國經營の氣運の廿七八年戰役に醸生せられずして遂く日露開戰に際して漸く盛ならんとするに至りしも亦宜也

芥生氏は朝鮮通なり其韓國の事情を研究するや茲に識あり今や日報を創刊して其通ずる所を以て我本國に傳へ兼て在韓邦人を開發誘導し進んでは韓人啓發の實を擧げんとす余輩氏の成功を希望する頗る切なるものあり氏の主張する日報の能く其本分を盡して主張を貫徹し大義公道に基きて一点の邪路に陷らず然も尙ほ能く隆々の名を成さん事を冀はざるを得ず

大日本帝國の國是と其歷史と其威功とは盛し各個國民に向て常に大なる教訓を與ふるものに非ずして何ぞや

朝鮮日報の發刊に際し一言を寄す

領事官補 鈴木榮作

輓近我帝國が韓國に對する經營は、軍事に政事に愈々其實行の端緒を開きたるのみならず、京釜鐵道は將來歐亞連絡の機關として遠からず開通の運に至らんとし、海上交通の便も亦た次でこれが設備を見んとす、此時に當り地理上日韓聯絡の要衝に立てる釜山港將來の發展は期して待つべきものあるを信ず

諸君が這回斯要地に於て新聞紙を發行せらるゝは其心事抱負の胸に忖度すべきもの不尠と雖も、余亦た其前途に對して聊か平生の所願を依托するあらんとす

余近來渡韓本邦人の状況を見るに、其員數頗る多數なるに係らず、之れ等の大部分は所謂一時的朝鮮熱患者に止まり、其眞に堅實なる見解考慮を持し來れるものに至つては、晨星亦た啻ならざるものあり、蓋し未だ韓國の事情充分に了解せられざるの致す所にして、是れ余の常に痛歎して止まざる所のものなりとす、若し夫れ諸君が發行の新聞紙にして、果して韓國經營の木鐸たるの器に負かざらんと欲せば、宜しく遠邇の消息に留意し、本邦人の爲めには朝鮮の事情を丁寧に探究解釋の勞を執り、在韓人の爲めには天下の大勢を遺憾なく迅速に報導通疏し、以て讀者の事情諒通を圖り、其啓蒙開發に努むるあらば、夫れ或は諸君が其抱負の任務を全ふするに庶幾からんか、我紙の發行を祝するに當り敢て一言を寄すると爾り。

朝鮮日報の發刊を祝して

在東京 杉山茂丸

鄰舍の草葺にして放火の好材料たるを恐れて之を購はんとする主人は偉大の家宅に其金を投して遂に貪吞の譏を免るゝ能はさるなり我帝國の韓國に於ける何ぞ鄰舍の草葺と相類するの甚だしきや

之を購ふの責白は韓されに產を移すべく而して韓の禍に迫りて主從兼併の色を帶し恐るゝあり然らずば過去二千年の歷史よりは以て今日に至る其推移經過は讀み且つ戒しむべきの甚しとせず

前年經濟の第一に韓に因由を今の計畫の舉其因由する所因より予說を須ゐずは隣舍韓の我を結し我兄弟の肝腦を亡ふもの差し亦た幾千萬なるを知るべからず先覺の士ありて考察研鑽れ勞を盡すんば如何んぞ能く之を全ふするを得んや

我が辱知の諸友相謀り新聞を釜山港に刊行し以て天下の耳目を掛け我が濟韓の大謨に酬ゐむとす其志寔に甚なり

寔ふ我邦濟韓を論ずるもの今太た多し而して其雜舌專ら相伴はず其公私施設の都會方法に至りては時に齟齬をして我濟韓大謨華幻榛莽の嘆を發せしむ有志の事情に精通せざる深く恐るべしとなす隣舍韓をして再び放火の材料たらしめざるを期するは唯だ善く其事情に精通するものを師とするに如かざる也

家宰の智慧は老奴に出づ巷婆の隣厨を談するを聽ひて家運の隆卑を卜す我が辱知諸君久しく韓にあり或は以て老奴に親しみ或は以て巷婆に聽き其朝謀夕議嗜好嫌惡より以て深所の秘事に至る迄知りて而して克く藏せり是よりは其抱負持論如として新刊の紙上に現はるゝに至らば隣舍韓亦た放火の恐れなきに至らしむるに庶幾からむ敢て所思の一端を錄して初刊の賀辭に代ゆるあと爾り

仝

在京 內田良平

（前略）剩下我朝野諸名流より市巷の寸庶は專ろ韓國通の多きに過ぐる顧にして其事によらず意外なる点迄議論有之候得共實行の一事に至りては青年途にも及ばさるは慨歎の至にして渺然たる一書生を以てすら深歎殘回なるを知らざる次第に御座候過般の宜戰後に於ける有様に見ても大使入韓の一事より長與家の設置入最高顧問一條今一ヶ條徴を知らぬは多少の機も有之詳かに申上兼候得共期算候れに伏し居り候哉然に苦しみ候事に御座候明治初年以降今日に至る迄我が對韓國是一定の軌道無之在野の諸人はいづれも強がり議論の中に立ち征朝常路者は發達の中に遁れ拉捉の方法無之事而巳に打過候是には何か原因可有之斯路に於ける對韓方策の如きは實に一毫の誤を許すべからざる事と奉存候

然るに在來の情態に因る推移傾向は決して安堵致され難く刻下の所謂多きに過ぐる韓國通は皮相の觀察者にして心は韓手に客幾人も無之紙上に於ける儀儀を經營する工匠の如く相應し申候乃ち相導誘掖を以て任ずる機關は通遊機導の外に急須のもの無之歟と存候

要するに官民公私一轍の方針に出でざる缺點は千年の美果を收むるみと可無之偏ひらくは內外多數の我が新聞界の通弊として時に議論の正實を缺き誘導の範囲より過ぎ老大自負の習氣ある實路の侯伯より融和せず利巳自營の惰因ある營業者流と反激し時に却て進速の妨阻物となり候

貴社諸兄御苦爭の結果簡明要を得る報導と正實機に先たつ議論を以てし貴々無用の閑文字を省かれ候はゞ部門較員を重ぬる新聞紙よりも一入利益の事と奉存候

袁子の飛岸に四飛の目有之候一に曰く目食を戒しむ二に曰く鼻食を戒しむ三に曰く耳食を戒しむ四に曰く口食を戒しむ食の口に於ける案の門ある如し口ならずんば食ふべからず而して口食ふを戒しむ如何ぜば可ならん滿盤の珍饌目に飽いて味ふに堪へず炎煮の脂與鼻に飽いて味ふに堪へず肉を臨ね饌を貪る曰ありと雖も味を知らず惟た心食ある而已利害の關ふ處庖丁の宋技も亦た鹽梅の術あり大にせば四境を治むべしと袁子は素より淸朝の一文流に過ぎず候得共其戒訓を以て太祖の朝鮮政策に大調料を與へ候由列下の我が朝鮮通は太底四食の饕貪非諸兄大なる戒訓を以て御指導可然候御祝如是候頓首

白

朝鮮日報の發刊を祝す

秋田縣代議士 近江谷榮次

日淸戰爭に貢獻し、又日露戰爭に貢獻せる議會の名、邦人は背ねからずして却て敵國に畏敬せらる、奇と言はざるべけんや、知已內田良平君久しく之を斡して其の盟同人と共に義を韓國に唱ひたる益し一面に止らず、曾の志士義生修既有、而中の頭腦と經營の實情を以て專ら調査の調査に關れるは、內田君の常に世に誇るところのものなり、乎や未だ君と一面識なし、然れとも君の精神、君の主張は吾黨當に撰して之を親知するを得たると同時に未だ成否の跡を表せざるの時あるなし、君か此事業に於ける成功は言はずもがな、吾人甞て敵ふする一の、何ぞその經設を辯明に附すべけんや

我大日本帝國が亞細亞大陸と相接觸せんとする毎に、必ず道を朝鮮に採るもの、蓋、自然の數なりとす、如何となれば、由來、我と彼と、地、相接通し僅かに對馬水道の一衣帶水を隔つるのみなればなり、是を以て、往昔、支那文物の東漸するに當りて、直ちに我帝國に來らずして、朝鮮半島を經由したるは、之を內外の史乘に照して瞭かなるところならずや、其の來るに便なりし通路の、我より行くに、亦た便なるは言を須ひさる所、帝國が爾後し來りたる實力と千古消耕するなき國光とを提けて、東洋の平和を維持し、漸く迫り來れる危機を一掃の鬪に營がんとするに當り、道を朝鮮に經たる、理の當に然るところならずせんや、征露の戰役、局を結ぶの日、未だ遠からずと雖とも、戰ふ毎に必ず捷ち、義きには頼みて以て靈證とせし迹勝を一擲して忽ち之を推くるあり、今夜た百、不落を誇りし旅順を陥れて、要塞戰史上、稀に見る偉蹤を奏するあり、兵勢を以て之を推せば、勝敗の數、誰か之を判するに苦しむ者あらんや、而して戰局已に定り、武力此に服すの時に至り、我は當有宣戰の 聖旨に則り、永く東洋の平和を保障せんが爲に濟韓兩國を誘掖輔導して、以て其の國力を扶植せさるへからす。

清韓兩國誘掖の要、固より相俟來するところなしと雖とも、地極めて近く、我が門戶を以て、觀るべき朝鮮に於て、殊に其の然るを見る。日韓協約の締結せられたるもの良に以ありてなり。

之を誘掖輔導せんとするには、先つ彼を審かにせさるへからす、其の國力を扶植せんとするには、彼を識るを以て急なりとす、若し其れ然らず、漫然誘掖の急を唱へ、扶植の要を說き、總へて其の實情を調査するなきが如きは、識者の取らさるところなり芥生錦亮君等同人大に此に見るあり『朝鮮日報』を刊行し、以て韓國近時の實情を世に公にすると共に、韓國人民の耳に文明の思潮を鼓吹せんとす、誠に是れ時代の必要に應じたるもの、登龍の熱情を以て之を贊せさるを得んや、聊か蕪辭を述へ以て祝す。

朝鮮日報の上途を祝す

東京辯護士 志賀和多利

盟友芥生氷山朝鮮日報を刊するを聞く、予夫れ何を以て之を餞せんか。

四海は一家人類は皆な同胞のみ、苟くも此見地に立つ、國家の疆域は殆んど無意味に歸す、而も現今一日國家の存在を缺くべからざる所以の者、之れ豈に人類生存の要件なるがためにあらずや、然り國家の存在は即ち人類生存の要件なり。長白の山は巍々として天空を摩し、鴨綠の流は洋々として地表を推す、皆を決すれば滿州の平野天際に盡く、すらーぶ人種の蕃殖縱横奔騰するを觀る、瞑想す其の指す所亞細亞中原無盡の寶庫を饒累するにあるとを、朝鮮が大陸的威化に與らざらんや以て做すへきなり、思ふに國家の盛衰興亡は一言にして盡すへからず、而も國家の存立や人類生存の要件なりとせんか、朝鮮立國の現在亦た推知すへきなり、今や六師海を渡りて滿韓の野、盛にすらーぶ人種と角逐す、兵や卒や、彼れも亦だ人の子たり、奈何ぞ徒らに鋒鏑に命を賭して甘心する者ぞ、其の之く所あるは亦た我日本立國の大本に基くものに外ならず夫れ山は高く水は長し、山水長へに斯くの如きも時代の變遷は殆んと蔑視すへからず乃ち今日朝鮮立國の要素我日本と同化すへき者あるを知らは、吾人の爲すへき所亦た朝鮮國民と相待つへき者あるとを知らざるへからず。而も天下悉く識者よして世人皆な心を同うするを得ず、朝鮮唯一の實業意山浦頭一箇之が機關よ任ずる者なかるへけんや、氷山が朝鮮日報を刊する、蓋し此に意あるか、日本人口五千万、朝鮮亦た一千萬、其生存に裨益する者豈に鮮少の功益ならんや、若し一箇新聞之れか任務に堪ゆ得んか、又歷史の精華たるを失はず、朝鮮日報以て心となすへし、氷山亦た其心力を盡して憾みなけん。

上途に際し以て餞となす。

仝

成田定

朝鮮日報各位益々御淸祥慶賀の至に奉存候陳は客年以來時運の必要に驅られ釜山朝報釜山實業新報等の新聞發刊するを見たるも孰れも期月ならずして廢絶に歸し興望に副ふあた能はざりしは實に遺憾に堪へざる所に存候

這般各位の熱心なる御盡力に依り朝鮮日報發兌の計畫既に成り本月十五日を以て第一號發行の由欣抃措く能はざる所に有之候今や日露の戰局は我が 至尊の御威稜と陸海軍將卒の忠勇とに因り振古無比の大平和の動機を握らんとするの機運に際會せり此の千載一遇の好機に當り貴紙は半島の咽喉たる釜山の要港に生る其の社會に對する貢獻の重且大なる知るべきのみ由來半島と我國とは一葦帶水交通極めて便利なりと雖も彼我事情の疏通せざるあるを實に驚くべきものあり從て半島に於ける諸種の經營事業の遲々として擧からざるも亦た怪しむに足らざるべし故を以て貴紙は汎く探りて深く究め正論確議眞實の報導を旨とし半島啓發の光明を爲り所謂社會の指南車たるの責任を全ふし以て長へに有終の美を成すあらんこと希望の至に堪へず茲に祝意を表し益々貴社の隆昌を祈り候匆々敬具

言論

吾黨の抱負

在京客員 尾崎曉嶂

帝國の韓山經營に於けるや其由來尚に久遠なりと云ふべし兒童走卒も猶ほ神皇豐公の征韓を記せざるはなく神代より現今に到るまで帝國の對外事蹟は概ね韓國に關せざるはなし而して其關係の成蹟は常に失敗ならずんばあらず日清の戰役に次いで北清の事變に列强の間に强兵八名を唱はれ今は世界の雄邦とたゝへられ幽微滅を見ざる露國を到る處に破りて順に第一等國の列位に登れるの大觀眼前に光耀をもるに當りても北事端の發生は一に帝國の韓山に於ける經營上に依存して來りして其經營に於て依然宿轍を繰り返すに止まらむとす攻戰に長したりとて經營に短ならば現代に處して優勝なる民族たるへからず鬼師數十万湖北の野に血河骨山の慘を極むる一再ならずして而も宣戰の詔勅に炳乎として明かなる帝國自衛の趣旨を貫徹する能はず攻戰の結果を收むる能はずして空しく他の利する處となるあらば帝國の對外經營能力は愈々絶望ならざる能はず自衛の道立たずして吾民吾君は是れ終にいづれの處にか適歸せんとする歟吾人の見る所に依れば帝國の對外經營に拙なるは尚に外交其道を得ざるのみに非ざる也商工の道振はざるに其太因を存し商工の道振はざるは町人根性の曖昧不鮮なるものありて其根本に據はるが爲ならずんばあらず帝國が三千年來養ひ來れる武士道は戰士軍陣の間に留保せられて生死之に拔り優に列强と驅逐應酬するに足る實證は今や世界の觀取する所となれるが獨り悲むらくは近代漸く自由の天地を附與せられたる町人運爲に一任して顧みられざりし商工實業の道は古來の卑陋なる町人根性の薫染を脫却するには尚ほ歲月を要し武士道の大本は各方面の事業の何たるを問はず人々取引交涉の大節に於て確乎不拔の必要あるもれなるあとは英國の商人が世界に横行し商人の一取る所なきが如きものも商信用の上に於て卓絶するありて其取引の繁榮するを見ても之れを覺知すべきに卑劣欺瞞是れ事とせる數百年の因襲は今尚は卑劣欺瞞を以て商工の大義要道と心得るもの絶へずして帝國商工の萎靡して振はざるを致し其結果對外經營の根據を作成する能はず如何に外交の妙を究むとも此の如くんば彼の日清の役爲骨枯れたる結果として收得せる吾が清國専管居留地の今尚は荒草茫々たるに反して當時均霑の列强の専管居留地の大厦高樓櫛比せるを見ても其何の效果をも來たす能はざるものなるまとを知るべし然るが其外交に至りても帝國に於ては其發達遲緩に前後歲月を要すると町人根性の撲滅に要すると異なるなきを見れば對外經營の常に當み失敗に終る所以の要素缺に具備せるを知るべし近代漸く國際關係の間に入りて僅かに外交なるものゝ必要を感じ初めたる吾國民は狼狽倉忙恰も秘藏むすめの始めて世間紛雜の裡に突き出されたるものゝ如く皮相を見て眞体に徹し得ず末節に就づきて大本を沒却し卽世辞愛嬌を以て渉世の妙契と誤認し娼婦藝妓的手練手くだを以て外交の秘訣と錯覺したるに似たり是に於て乎八方美人は一世の大理想となりサーベル新聞は韓國の瞞着する所となるの奇觀を生じ拙劣なる外交は日清の戰を生じ而も三國の壓迫に屈辱を嘗り而も一語の絶順不可讓の條件を提出するを忘れ唯だ此一語の忘却は更に拙劣なる外交と伴ひて今や日露の大役を發し其發し來れるは紫と外交の拙劣に因るなれど吾人の雙手を擧げて歡迎する所にして帝國自衛の爲には是非共此一戰なかるべからずと雖も其攻戰の本旨たる帝國の自衛韓山の經營は吾馬不進分進凹凸として左支右吾徒に攻戰の本旨を逸出せんとするに至りては――三千年來の失敗は猶ほ忍ぶべし日淸役後の失敗も尚は忍ぶべし今日此時再び來らず吾帝國の前途を奈何せむ嗚呼機たびか流血百萬舉國の幸否も何の効果をも收め得ずさせば外交の拙劣は豈想外に甚しきを掩ふべくもあらず蓋し攻戰に至るさへ外交の拙劣を見るべきに攻戰を以て贏て而ほ外交上の利權を收得する能はずんば是れ外交の拙劣なるに非ざるなり本來外交なき他由來唱婦的手腕は國際間の亂麻を整理するの任にあらず更に箇の剛健俊偉の豐能に非ずんば轉俎、間に折衝して對外の經路を實現すべきに非ず吾國民の外交における理想の誤認は似而非外交を生成し目下の經營に於て苦杯を嘗めつゝあるものと云ふべきなり由來娼婦的手腕は韓國君民最も之に長じ列强及ぶものあるなく譎詐百端糊塗弱纎腰曖昧模稜消を翻弄し吾を翻弄し附かず離れず彼我の間に介在し一兵番へず一艦繫せず優に社稷を保存し國を大韓と號して列强の使臣を朝聘せしむ如何に八方美人を以てしても斷じて帝國の及ぶ所にあらざるなり而も是れ只だ亡國附庸的外交のみ亡朝に立ちて縦横せらざる間に一身を全ふする々しトランの外交のみ外交史上いづれか大節義然徹骨稜々たる眞骨頭漢にあらずまて興國的外交の偉勳を奏せるもののあらむ歟斯る然たる事實を無視して徒らに末節細目に若心き興國の機運に乘じながら一亡國を制馭するに苦み已に兵火の禍威を負ひて立ち帝國の自衛上必須止むべからざる道に當りて大本を樹立し大綱を提起して處斷する能はず帝國の韓山經營に於けるや猛省すべきなのある也吾人は其根本に於て商工の遲緩と外交の鑑識に於て對外經營の要素を缺くものあるを見る本を拔き源を塞がずんば末節百般の要義は一も十分なきを知る此根本義を認知せば吾人が座して大政の潜運默移を看過するに堪へず微力に揣らず敢て本紙を刊行して韓山經營の案内者となり朝鮮內地の實相を日本の內地人に傳へ傍ら鮮人の開發に任じ日韓兩民の親交を進捗せしめんとするも亦徒勞に歸せざるべき也

新聞記者生活

社外一記者

▲世に新聞記者を養成する學校とては無し雖しも小中學の頃より新聞記者とならんために學問せるものもなかる可し、而し世に新聞記者の數頗る眞砂の如く盡さざるは何故なるや、是れ多くは新聞記者でもならなければならぬ樣な場目に逢ふて爲つたるものである、一寸なつたが公錢の始り三日せねば止められぬ不思議の運命を以て生れた連中である、新聞記者とは世間の思ふ程エライものに非ず、亦樂なものでもない。

▲然れども世間には新聞記者の生活表面計りを見て己も爲つて見たいと志望する青年が少くない、其多くは中學校を卒業し得ねた連中か小學校の時代に作文の滿點に誇つた神童である、斯くて彼等は徵兵適齡の前後に於て新聞社の所謂る三面記者の末席に列す、それから酒を飮み習ひ女も買ひ習ふり一つそれから小説を作り習ふ。

▲否、否、新聞記者全体がその通りおやと云ふでは無論ない、而し多くの地方新聞記者はまあ斯んな工合から所謂る記者と爲るのである。

▲更に進んで東京邊の新聞記者を見ると此も多くと高等の學科を中途で止した先生が多い近頃三田や早稻田邊から出る連中も學校は卒業したが新聞社にでも入らなければと云ふ連中が多い、からして矢張りでも入らなければの學位を持つてゐる。

▲而し年數を喰つて經驗が出來ると社會の木鐸たるに耻ぢざる大新聞記者が出來るのであるが、さうすると其氣焰が凄しい、僕は大臣か公使かでなければ政府には入らないなぞと仰つしやる。

▲それは御尤、大臣にもなれ公使にもなれる方々が新聞記者の內には澤山あるが、さて日本全國にて幾千人かある記者の內で所謂る名のある、何處へ出しても新聞記者であると紹介される先生は其內幾百名あるであらうか、或人が議會を解散して新聞記者計りを選出したら、さぞ立派な政治が出來やうと冷した事があるか、此は隨分皮肉な評だが新聞記者には好い藥だ。

▲まあ東京の大新聞でなくとも地方で一社の主筆をする人を探究しやうとするのは少か困難である、そこで止むを得ず大學飛出しの青年學士を雇ふて來る、すると新聞が雜誌の樣なものとなつて出來上る。

▲何と云はれても仕方がない新聞記者の際限れ常識以下である、況んや專門の學術に通じて居るものがない、持ち王へ法律と經濟と歷史位の専門家はあらう、それとても先づは偏狹なのが多數だ、況んや科學の智識をや軍事の實驗をや、商業の經驗をや、否な智識や實驗や經驗を云ふのではなかつた、其等の理解力と常識をやだ。

▲足下は新聞記者で居ながら何故にさう全業者の惡口を云ふかと云ひ玉ふな、此が實際だから仕方がない否な僕が日本內地に居た頃は斯うであつたのさ。

▲此等の點は新聞記者の欠點であるが世間が認める新聞記者の欠點は他にある、之れは所謂る惡徳を働らく、嘘をつく、無責任である、之を間違つて解釋した所謂る新聞記者志願者の眼から見れば金が儲かりさうだ氣樂なものだと云ふのである。

▲世間は後者の過失のみを擧げて前者は只點を寛恕するらしいが、前者は實に新聞記者の過で後者は或は社會の罪では無らうか

▲僕は嘗て米國の新聞記者から日本の新聞記者の生活は樂かと問はれて、イヤもう借金で困ると答へたら、米人の曰くどこの國でも新聞記者の財嚢は現金よりもビールが多いと答へた、其ビルも受取證でなくて多く否な悉く請求書であるとさ。

▲何故さう貧乏する、金使ひが荒いからと一概に云ひ玉ふな、社會が與ゆる處の新聞記者は生活費と交際費に足らぬからさ。

▲此點は社會が惡い、多きを責めて少く與ゆるから、而し惡德を働らく記者は無論好く無い、まあ大臣にならうとか紳士の生活をしやうとか云ふなら世間並の常識と普通以上の理解力とを備ふる迄の素養をしてからだ。

▲而し東京大坂の大新聞では此多く與ゆる事が近來は行はる、樣だから從つて新聞記者の品性も好くなつたが地方ではまだ駄目だ、それで妻子を養ふ苦痛を知ふ者は無能無氣力に爲つて了うし無妻無係累の者は多く放蕩で亂暴だ。

▲此をどうにか改良する工夫は無らうか、無論新聞記者自身もでもならなければで一時は爲つたまもせよ、なつたが最後なかなか惡縁は深いからもう腰かけ根性は駄目だ充分社會の木鐸とも急先鋒とも忠實なる報道者とも爲らなければならぬ。

▲何んと云つても新聞記者自身の欠點と社會の待遇はまだまだ急には改良されまい、而し此釜山などでは一体新聞記者を何んと思ふて居るであらう、立派な一人前の記者が內地から來ても矢張り喰詰めのデモと思つて居やうか、それとも新聞記者とさへ見れはエライ學者で何でも知つて居る人と思つて居るだらうか。

▲僕が斯んな事を書くのを何の爲だと思つて居るだらうか。

（明治卅八年一月十四日　第三種郵便物認可）　明治三十八年一月十五日　朝鮮日報　（日刊）　（日曜日）　第壹號附錄　（三）

今昔の感

（對州島の露艦暴狀事件）

（犬東彈吾氏談、社員筆記）

（其一）

今や三十余萬噸の軍艦を擁して堂々たる帝國の大海軍は、日本、支那、海は勿論北は浦鹽の海面を壓し南は印度洋迄我の遊弋に任じ、世界の大半に武威を輝かし列國をして駭目驚心せしめつゝありと雖、僅か四十年前文久年間の當時を回想すれば、茫乎として夢の如く容易に現今の覇業を宿すべき運命を付せりとは信ぜられぬ程也、殊に其頃の露西亞と言へばピーター大帝以來の非望を大策として四方を蠶食し、恰も洪水の氾濫するが如き害毒を流し、其大鵬翼を擴げて遂に我日本を覬覦し、先づ足溜として我對州島を蹂躙したる時なぞは其亂暴狼藉なる事國内悲憤の士をして眞に血涙を絞らしめたり、今年彼露國の末路は奈何、今其海軍は何の狀ぞ、堅牢無比東洋第一と稱する大平洋艦隊は我精鋭の爲に脆くも木葉微塵に粉碎せられ、第二派遣の艦隊は旅順の陥落によりて進みも成らず、加ふるに其旗艦を坐礁せしめて將士全く生色なしと言ふ有樣、遂に召還の命を傳へられたとの事さへ傳説され、鷲鳥の國旗暗澹として露都哀傷の光景を弔ふと共に予をして當年[illegible]の段階を聯想轉た今昔の感に堪へざらしむ、今予は當地に於ける古老を訪問して對州に於ける露人暴行事件の當時を描かんとす

頃は文久元年であつた、我對馬島の春街は寒き二月三日の朝、一條の黒烟りか沓かの海上に流れて見えた、海岸の漁民は早くも見付て、何であるかと甲より乙に傳へ、忽ち群集して噪き出した、見る間に黒き烟は黒き船体を現はして段々此方に進み尾崎と言ふ漁村の沖合に碇泊した、サア騒ぎだ其頃日本は孤島の天地夢暖かに外患の何者たるを知らない、今此の見も聞もせぬ小山に似たる怪物が現れたので、如何ゝ島人の心魂を悸かしめたかは想像の外である、殊にこれが唯の襲來ではない所謂露國の野望たる世界經略てふ一大任務を包藏して其先驅となり幾多の故障を持出さしむべき使命を有する悪魔であるからたまらない、急使は急雨の如く飛び河島は疾風の如く走り、暫時にして島内一般に知れ渡り恰も一大電氣に打たれたかの感があつた、是れかそも〳〵文久年間對馬島に於ける露國軍艦の暴狀發端である、

當時對馬の大守は宗義和公で物に動ぜざる沈着の人であつた、露艦入港の報に接して直ちに近臣淺岡丈之助を問狀師（談判役）となし川元九右エ門を異文役（通譯）とし自分は書記に擇ばれて、急行して露艦の碇泊した尾崎村に出張した、淺岡氏は一番に肩を併ぶる者なき學者であつた、自分は其時僅か十九の少年であつた、水兵に案内せられて艦長室に導かれた、自分は艦長とは何んな奴かと先づ凝視するを禁じ得なかつた、彼は六尺許りの大男で、多くの碧眼に似ずして寧ろ操髭勝の明眸である、所謂偉風堂々たる面影と言ふであらう、彼は我の問に對して慇懃である其言ふ處は航行中暴風雨に逢ひ船体痛く破損し且つ食料飲水の欠乏せるを以て供給を仰ぐとの事であつた、斯くて艦長は一の書を贈ぎ、破損の個所を案内せしめたのである、成程彼が言ふ如く檣柱は二本程挫けてあつた、併しながら航海に差支るとは固より見えぬ、且つ檣柱も故意に挫た疑かある、否疑いでない異敢故意に出でたのである、淺岡氏は何れ藩主に伺ふて返答すべしとて艦を辭し去た、藩公は直ちに家老諸士を集めて大會議を開いたのである、

小品文

所感　氷山生

山や、水や、樹や、草や、岩石やの形態や光線の反映や、其他各機やの配合あつてこそ操色の異趣は備へらるゝもの、人事何事も少しも此理に漏れないでのある。

我社同人鼓に相集つて朝鮮日報の刊行に從事す、山氏、水氏、樹氏、草氏、岩石氏、之れに伴ふ面々等が紙上に發揮する景致は如何に趣を爲すであらうか

○　相澤生

ナポレオン帝の言に三個の新聞紙は十萬の劍戟より恐るべしと嘆喝してある、奈翁の此言は如何なる動機に出でたるやを知らぬが十万の劍戟とはチト言ひ過ぎたではあるまいかと思はれた

併しながら輿論の大勢力は拔山倒海の大英雄も不可抗力で其輿論を生み出すものは實に新聞紙の秋霜の鋒にありとすれば豈唯十萬の劍戟のみであるまいと信ずる

當港には朝鮮時報朝鮮毎日と言ふ新聞紙と我社發行の日報とを併せて玆に三個の新聞紙を生み出した譯である、然らば果して奈翁の言の如く十萬の劍戟よりも恐るべき大勢力であらうか

◎　古山生

讀ませるが爲めに出來た新聞は新聞の皮で肉ではない。皮は萬人の要求を充たす商品ではない。讀まるゝが爲めにつくられた新聞こそ萬人を肥やす滋養物である。正十萬の兵も指揮を誤れば一兵にも劣る。新宗の銘刀も盲人の手では生瓜も斷れぬ。新聞は社會の生命劑である。生殺の秘訣は國手の匙加減一つである。

●本紙の發刊に際して所感を述ぶ　社末　黒潮生

嘗て瀟湘に在る事七星霜。時に絶南の雲を破つて廣東の内地を拔渉し。或は長江の水を渉つて蘇杭の都市に吟嘯せる予。未だ曾て韓山の風光に接せざる爲め頗る仝人に耻づるものありしが。今日偶然來りて釜山の客となる。原是飄遊新生面の門外漢なれば技に筆を採りて新聞業に從事するは頗る大膽なるものある也。而も予誤つて字を識りてより操觚の事頻りに予を强いて之に從はしめずんば止まざるが如きの運命に會ふ。况んや黒龍會當時の同志爲生徐究氏の懇[illegible]ふ係る本紙に聘されて其社末を汚すを得るは。予が最も快とする所也。由來不文にして薄識敢て江湖ゝ問ふの抱負を有せざる予なれども。聊か此知遇ゝ酬ゆるが爲には誠心犬馬の勞を厭はんと欲す。本紙の發刊に當りて謝する所は唯此の如き而已。

本國に歸つた心持　舞三生

予は元來韓國不壞の者で五年間程日本へ遊學して一週間前のアンジ子號にて本國へ歸へれは五年前の釜山と今日の釜山は意想外の變化を呈してゐる山は平地になる海は陸になつた處が多い日本の居留地と附近の有樣を覗へば人間の往來と物品貿賀の繁昌は日本が朝鮮になつたか朝鮮が日本になつたか誠に了解に苦しむのであるから久し振りに本國へ歸つた予が心持は半欣れしく半悲しい樣な一種妙な感じが起るのである

文苑

○朝鮮日報の發刊を祝いて　竹　靜

世にまろき香を配れかし梅乃花　竹　靜

春雜吟（春の句及戰爭雜吟を寨る）

初日の出爽秋の嵐靜まりぬ　竹　靜

様に殘る雪は汚れて梅白し　仝

一羽づゝ鶴雅く舞ふ春日哉　仝

様の一つ殘りて春寒し　其　昌

艦隊に凱歌響きぬ春の雲　仝

君が代の歌に暮れ兎松の門　仝

亡き人ゝ捧げし梅の散りけり　八重女

初日の出君が代歌ふ小供かな　仝

遠くなる號外賣や春の宵　仝

戰陣新年　黒　潮

銃聲す今日元日を野營にて　仝

から國や虎伏す野邊も初日の出　仝

占領の山に拜みぬ初日の出　仝

東京旅亭病吟　保寧山人

秋色集帝城　萬衞氣秀聳
遙憶征戍兒　殊域振神勇
噫我離離倫　不知濁毛重
蕭々征馬聲　壯志忽如湧
若何敗殘軀　羈之徒恐々
欹枕聞砲　靜言難奮踊

營業種目

▲歐米各國金。銀。鐵。ニッケル。懐中時計 ▲掛時計 ▲置時計
▲金鎖鎖（各種其他附屬品） ▲電氣鍍金（金銀。赤銅。ニッケル。年度保險付） ▲金製石入指輪
▲鉄側色付 ▲金製石入指輪
▲眼鏡 ▲望遠鏡 ▲寒暖計
▲正午計 ▲バルモメートル ▲方針
▲提金庫 ▲洋傘 ▲貸自轉車
▲カビチ寫眞器械附屬品付
▲アレニー手札寫眞器械 全
▲大蠟管大聲蓄音器 全
▲英國製二連銃十二番徑 全

右ハ特別安價ニ勉强仕候修繕ハ叮寧ト迅速トヲ守リ候間續々御用命奉願上候也

釜山港幸町一丁目

園田時計店（電話二百十番）

恭賀新正

營業科目

委託賃搗

りよ御好み共搗方丁寧直ちに上白米共仕候可申候取扱石荷ぉ應ぉ等ハ御注文ぉ造可仕候

精米販賣

石拔精白米並精白米廉價にて販賣仕候極上等の品可被申候以上ハ早く港内市中ハ持参可申候品物届文次第御早く送荷可仕候便利法もり

右之通大勉强ヲ以營業仕候間多少共何卒御用命奉願上候

釜山港幸町

釜山精米所

（電話三十一番）

陶器卸商 ㊂（其他美濃物産各種）（本店は美濃陶器同業組合の一手販賣なるより品質の堅牢にして...）

本店 美濃土岐泉郡村[illegible]

美濃物産合名商會

支店 韓國釜山大廳町

主任 山口 精

㊂商會の品は五日以内に持参あれば他品と引換えします又た手紙の御注文は特に親切に取扱ひ精々薄利に致します㊂しな類に比店ことは他

大販賣廣告

●播州素麵並干うどん
●筑後特製雨傘各種
●洋傘。毛布類。燐寸。石油。
●韓人向釜附釜火鉢。火伸。
●農具一切其他韓人向諸雜貨。

以上工場ニテ製造一式

右之外各位之御便利ヲ計リ品ニ不限御注文品御取次キ御相談ニ應シ可申候條倍舊續々御用向仰付被下度奉懇願候

本町三丁目二十六番

倉成商店

富平町十七番月

倉成製造場

はるばる來たれよ西町十字屋のうれしい品は安ねい評判ねいくらよそでもはらんない釜山第一の賣ふそ

陶器おろし小賣

サノサ

十字屋

安賣之隊長やは幸町は南濱筋

大黑藥店

賣りて居る品はなんでもしも藥は一切葡萄酒化粧品寫眞用品一切工業用品はとくに揃へて品物とをて安めでは右の藥店御案内可申候

釜山港幸町一丁目南濱通り

大黑藥店

藤井文平商店大勉强廣告

一毛布　一綿毛布　一タヲル類
一黄燐寸　一安全燐寸　一鏡類
一香油類　一寶船印洋蠟　一石鹼類一式
其他韓人向諸雜貨
漆器類一式

弊店儀各位ノ御愛顧ニヨリ日増盛大ニ赴キ候事深ク感謝仕候就テハ猶一層大勉强仕候間倍舊ノ御引立ヲ希上候御愛顧ニ預リ候

大阪市心斎橋通リ南久寶寺町 本店 野村南號

韓國代理店

藤井文平商店

電話二四三番

營業科目

●日本各製紙會社製洋紙特約販賣
●舶來各洋紙卸販賣
●直輸入鷲印コンデンスドミルク卸賣
●サッポロビール特約一手販賣
●清酒菊水印 ●袋印最上醬油
●各種葡萄酒 ●北陸セメント
●象印安全燐寸 ●大猿印ポス燐寸
●共濟生命保險株式會社代理店
●帝國海上運送火災保險株式會社代理店

諸物品委託賣買問屋

今[illegible]野商店